

ぱれっと

2008
1月

No.101

■ 目次 ■

- P. 2～3 すぽっとらいと「メディアデザイン」
- P. 4 サポセン日記【新春特別版】「十年の計は元旦にあり！」
仙台市市民活動サポートセンターセンター長 黒澤 学
- P. 5 ミニサボダス
サポ本を読もう！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト 11/27 坂口和隆さん講演会 報告
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など

「子育て中の若い世代に、自由な時間を！」 ～子育て支援グランマ



子育て経験が豊富なグランマ（グランドマザーの略）たちが託児をしている光景です。「今の若いお母さんたちには自由な時間をあげたいのよね。私たちの時代にはできなかったから。」と中心メンバーの村上さんと松倉さん。また、グランマ世代が社会に出て活躍する場を作る役割も担っています。現在、サポセンの事務ブースに入居しており、月・火・金曜日の9：30～15：30サポセン研修室3にて託児を行っています。
仙台市青葉区一番町4-1-3 レターケース47
TEL/FAX：022-721-7227
携帯：090-5238-4544

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

「メディアデザイン」が主催する『NPOのためのデザイン力講座』は、団体の思いを伝えるツールとして欠かせない印刷物の作り方を、分かりやすく丁寧に教えてくれると毎回好評です。運営の仕方など何か秘策があるのでしょうか。団体の活動の様子とあわせて、その秘密を探るため青葉区木町通にある事務所を訪ねました。



メディアデザイン
代表の大泉浩一さん

●メディアデザインとは

メディアデザインの活動の目的は、NPOや市民活動団体の広報支援です。2004年春に団体を立ち上げ、今年で4年目になります。現在メンバーは5名。全員仙台でプロとして活躍するライター・編集者、グラフィックデザイナー、webデザイナー、カメラマンなどフリーのクリエイターです。そして、それぞれが社会貢献や市民活動に関心を持ち、自らそうした活動に携わってきた経験者です。

日頃より、クリエイターとしての仕事のノウハウ、PR・メディア制作の知識や技術を、NPO・市民活動団体に伝え、市民の自発的な活動を応援したいと考えていた代表の大泉浩一さんの声かけに、当時それぞれの活動のため本町サポセンをよく利用していた他のメンバーが結集しました。

●NPOのためのメディア制作を

メディアデザインの事業の大きな柱は3つあります。

1つめは、主催講座「NPOメディアデザイン講座」の開催です。主にNPO・市民活動団体の広報担当者を対象に、チラシ、ニュースレター、パンフレット、ホームページなどメディア制作の講座を行っています。

今年度は、これまで10回、印刷物のデザイン講座に的を絞って開講してきました。過去にはパソコン講座、インターネット講座なども行い好評を得ています。

この講座は、講師の一方的なレクチャーのみで終わることはなく、ワークショップ形式で実際に作業が多いのが特徴です。メンバーで講師の真山正太さんの面倒見の良さからか、講座が終わって

から、「あの、このチラシみてもらえますか」と声をかけられることが多く、毎回居残り授業のようになっています。2度3度と受講される方々からは、「団体に持ち帰って役立てています。」という声も多く聞かれ、講座の内容が評価されていることに手ごたえを感じているそうです。

2つめは、メディア制作に関する講座・研修会への講師派遣です。今年度は、社会福祉協議会広報研修会、仙台市泉区PTA連合会広報委員会講習会などに出向きました。

3つめは、印刷物、ホームページ等の制作です。NPO、自治体、企業から依頼を受け、実績を積んでいます。

●参加者集めのコツって何？

どこの団体でも講座の受講者を集めるのは大変苦勞するところなのですが、それはメディアデザインも同じです。そこで第1に、「骨プロ」を活用しています。骨プロはすぐれもののシステムで、サポセンにイベントチラシを持参するだけで仙台市内の9つの施設に配架できるのですから利用しない手はありません。

第2に、河北新報など新聞社へのプレスリリース。掲載された記事をみての受講申し込みは、特に新規の方の開拓に繋がります。第3に、過去の受講者へのメールでのご案内です。

このように、とにかく考えられるすべての方法を講座のたびに全部やってみるということで、ほぼ毎回10数名の定員に達する参加者を確保しています。

団体紹介

「メディアデザイン」

NPO・市民活動に携わっているプロのクリエイターが集って、NPO・市民活動をはじめとする市民の情報発信を支援している。「NPOメディアデザイン講座」を開催している他、印刷物のデザインやホームページの制作等を行っている。

＜団体連絡先＞

〒980-0801
 仙台市青葉区木町通1丁目1-11
 朝日プラザ北一番丁1F
 TEL 022-224-5308
<http://www.md-sendai.com>
md@md-sendai.com



●サポセン事務用ブースからの巣立ち

メディアデザインは、サポセンをフルに活用してきました。講座の会場はもちろんサポセンの研修室。さらに、事務用ブースとレターケースを2004年10月から2007年1月まで使用していました。

サポセンに拠点を持ったということで、メンバーの集まる場所ができ、資材などの置き場が確保できたというメリットの他に、メンバー同士の結びつきを強めるという効果も発揮しました。そしてなにより、外部からの信用を得ることにつながったことは、団体の大きな励みになりました。

しかし、サポセンの事務用ブースに入居できるのは最大3年。入った当初から将来を見越して「3年後には必ず仙台市内の中央部に事務所を持つぞ!」という高いモチベーションを持って臨んだところ、2007年2月に目標達成の念願かなって今の事務所に移転することができました。



●広報のよろず相談受け付けます

団体の人たちには、広報の仕事を後回しにせず、無理をしても最初から広報の仕事を折り込んで活動をして欲しいと話しています。そしてできれば、ホームページを作ることを勧めています。今やホームページは有効なメディアで、重要な情報提供ツールとなるからです。

でもどうしたらよいか分からないという団体には、そのお役に立てるよういろいろなメディア制作についての相談を無料で行っています。

メンバーのNPO・市民活動の経験とクリエイターとしての知識を活かし、それぞれの団体の要望を聞きながら、思いにそった提案を丁寧してくれます。漠然と、ホームページを作りたい、パンフレットを作りたいという感じでもよいそうです。

市民活動をしている人たちは、自分の存在を知ってもらうことが大切です。自分たちを必要としている誰かのために、自分たちを知ってもらう手段、それが広報です。

これからも、「メディアデザイン」に結集したプロフェッショナルたちは、NPOや市民活動団体の方々の力になるべく活動を続けていきます。

(担当：葛西 淳子)

次回のメディアデザイン講座は・・・

2008年2月6日(水) 19:00～
 サポートセンター研修室2で開催します!

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに見えるのか紹介します！

サポセン日記

【新春特別版】

十年の計は元旦にあり！

仙台市市民活動サポートセンター

センター長 黒澤 学

(指定管理者：(特活)せんだい・みやぎNPOセンター常務理事)

1999年6月に仙台市市民活動サポートセンターは、青葉区本町2丁目に開館しました。一昨年には、7周年を機に建物の老朽化もあり、青葉区一番町4丁目の現在の地に移転をいたしました。そして、今年の7月で丸9年を迎え、10周年を見据えた取り組みを始める時期に差し掛かっています。

この間、全国初の公設民営型の大型市民活動支援施設として、他市町村の市民活動支援施設に良くも悪しくも影響を与え、我が国の市民活動支援施設の一つの定型を示してきました。

共同事務室、貸しロッカー、印刷作業室、情報サロン、交流サロン、諸貸室などといった施設機能の構成。団体情報ファイル、貸し出し図書、チラシ&ニュースレターラック、骨プロなどといった提供情報の構成。市民活動やNPO法人、施設利用に関する相談機能の構成。人材育成事業、ネットワーク推進事業、出前サポセンなどといった事業や講座の構成。

毎年、毎年、新たな市民ニーズへの対応、サポートセンターとしての先導的な役割を意識しながら、事業や機能のスクラップ&ビルド、リニューアルなどを行いながら、新しいサービスの提供に取り組んできました。

新年を迎えるにあたり、サポートセンターを今後どのように運営していくのか、そのビジョンをぱれっと初登場のセンター長がお伝えします。

2009年に10周年を迎えるに当たり、基本的には10年前に考えられた施設機能、提供情報、相談機能、事業や講座について、次の10年を見越した大胆な再構築が必要なのではないかと考えています。

現在、提供されているサービスをより分かりやすく加工し、提供していくことは言うに及ばず、例えば、企業の社会貢献活動(CSR)の情報発信をサポートする機能、地縁コミュニティ(町内会等)とテーマコミュニティ(市民活動等)の連携を促すための事業や情報提供、市民活動の分野別ネットワーク形成の支援、指定管理者制度に関する情報提供、公益法人改革に関する情報提供、さらには、地下の市民活動シアターの利活用など、やりたいこと、やらねばならないことが目白押しです。

10周年への準備として、そして20周年を意識し、仙台市市民活動サポートセンターが我が国の市民活動支援のリーディング施設であり続けるために、今年からその準備が始まります。



サポセン 5つの機能

- ①市民活動の場の提供
- ②市民・企業・行政の連携
及び交流の推進
- ③市民活動に関する
情報の収集・提供
- ④市民活動に係る人材の育成
- ⑤市民活動に関する相談の対応

センター長が宣言する10周年を見据えた強化項目

- 社会貢献活動・CSRの情報支援
- 地縁&テーマコミュニティの連携促進
- 市民活動の分野別ネットワーク形成の支援
- 指定管理者制度に関する情報提供
- 公益法人改革に関する情報提供
- 市民活動シアターの利活用

ミニサポダス

◆サポセンの利用状況を
毎月テーマを変えてお知らせしています！

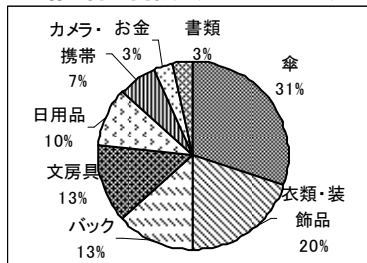
■サポセンでの忘れ物／No. 1は やっぱり傘！

みなさま、いつもサポートセンターをご利用いただきましてありがとうございます。お帰りの際にお忘れ物はありませんか？
本日はサポートセンターにどんな忘れ物があるのか、11月の忘れ物を見てみましょう。

サポートセンターは毎日たくさんの方に貸室や交流サロンなどをご利用いただいております。私たちは、みなさんに貸室をご利用いただいた後は、お部屋の状態を確認して掃除をします。その時に忘れ物を発見することがあります。落とし主の連絡先がわかる場合は、すみやかに持ち主に連絡をしますが、そうでない場合には拾得物として事務局で2ヶ月間保管しています。

●落し物・よくある上位5／(件) ●落し物の内訳 (2007年11月)

傘	9
衣類・装飾品	6
バック	4
文房具	4
日用品	3



11月は全部で30件の落し物がありました。その中で一番多いのは傘で9件です。この月は仙台も去年より早く雪が降るなど天候が不安定だったため、傘を忘れていく方が多かったようです。10月の傘の忘れ物が4件だったのに対し約2倍の数字になりました。

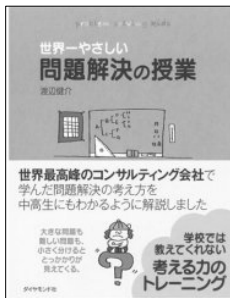
次に落し物として多いのはジャケット、帽子など利用者さんの身に付けていたもので6件でした。寒くなって、身に付けたものを脱ぎ着することが多くなるのでそのまま忘れていかれるようです。また、バックと文房具類もそれぞれ4件ありました。その他、11月の面白い落し物にはマッサージ器具というものもありました。

このようにサポートセンターには様々な忘れ物があります。「忘れた！」と思ったらサポートセンター窓口まで。2ヶ月間は保管しますが、それ以降は仙台中央警察署に拾得物として届け出ますので、心当たりのある方はサポートセンター窓口また2ヶ月過ぎた場合は仙台中央警察署までお申し出ください。

(担当：豊泉昭子)

サポ本を読もう！

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。



世界一やさしい
問題解決の授業
著者：渡辺健介
発行：ダイヤモンド社
定価：1,260円(税込)

例えばここに、地球温暖化問題を解決したいAさんという人がいたとします。Aさんは考えました。温暖化問題への取り組みが進まないのは、みんながこの問題を知らないからだ。よし、みんなに温暖化のことを話してまわるぞ！
でもAさん、ちょっと待ってください！ Aさんが元米国副大統領ならともかく、そうでないならば、温暖化のことを話してまわるより、もっと効果的な別の方法があるかもしれませんよ。
この本は、つつい勢いで動いてしまいうAさんみたいなタイプの方にお薦めです。具体的な事例をもとに、課題分析シートなどの思考のツールが紹介されており、考えながら行動するというタイプの問題解決能力が身につきます。
事例を自分たちの課題に置き換えれば、市民活動団体の問題解決能力の向上にも役立つこと請け合いです。
担当 布田 剛

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

急な打合せに使えるフリースペース
でありがたいです。

ご利用ありがとうございます。サポセンには少人数の打合せや作業に使えるフリースペースが3、5、7階にあります。急な用事でも、受付すればすぐに使える便利な場所です。今後もぜひご利用ください。

サポートセンターの空調は、部屋ごとではなくフロアごとの集中管理になっています。暑すぎる場合、寒すぎる場合には、スタッフが調整しますので、1階事務局までご連絡ください。

ちょっと部屋は
あったかいです。

暖房が暑かった。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサボセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

2007年度 仙台市市民活動サポートセンター人材育成事業 坂口和隆さん講演会 報告

本業であるシャプラニール＝市民による海外協力の会（以下シャプラニール）の活動以外にも、地元西東京市で市民活動の中間支援や障がいを持つ子どもたちの学びを支援する活動などに関わっている坂口和隆さん。それぞれの活動ストーリーを聞いて、活動を始めたきっかけや活動で得られた成果など、団体運営のヒントを見出すことができました。

日時：2007年11月27日（火）18:30～20:30

場所：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

講師：坂口和隆さん

シャプラニール＝市民による海外協力の会 事務局長

I. シャプラニール＝市民による海外協力の会

まずは、シャプラニールの活動についてお話をいただきました。

「シャプラニール」はバングラデシュ語で「睡蓮の家」という意味です。バングラデシュやネパールといった南アジアの地域をフィールドに、現地のNGOと手を組みながらストリートチルドレンの自立支援活動などに取り組んでいます。その他に国内活動もしており、現地の女性たちが作る手工芸品を日本国内で販売するクラフトリンク（フェアトレード）などの取り組みがあります。また、全国28箇所に地域連絡会を置いて、それぞれの会が独自に活動を展開しています。

シャプラニールのミッションは、「全ての人々が共生できる地球社会の実現」です。活動が世界規模で市民活動とかけ離れていると思われがちですが、シャプラニール＝市民による海外協力の会というように、まさに一般の市民が立ち上げ、市民によって運営されています。例えば、一般的に国際協力NGOの活動資金は外務省のODAが大きな部分を占めていますが、シャプラニールでは自己財源の比率を高く保とうと、全収入の75%を自己財源でカバーすることを目標に掲げています。財政的にも組織運営にも市民が関わっており、民主的に意思決定をする市民活動団体です。

21世紀のシャプラニールは、共生をキーワードに活動する動きをつくっています。日本には、子育て、コミュニティの崩壊、環境問題など多くの問題がありますが、同じようなことがバングラデシュやネパールでも起きています。貧富の差はありますが、人間個人の問題と考えれば、互いに同じ問題を抱え、解決に取り組んでいると見ることができます。そう考えると、富める者から貧しいものへという流れではなく、お互いに学びあい、与え与えられる関係で活動ができるのでは、ということ共生というキーワードが出てきました。

II. 地域での活動

ここからは、坂口さんが地域で取り組んでいる4つの活動についてお話をいただきました。

①普通学級に通う障がい児の介助問題(はつきいねっと)

障がいを持つ子どもが公立学校へ進む場合、公的介助員制度がないため、保護者の負担が大きい。→障がい児の親たちが立ち上がった。

学校側や教育委員会側と粘り強い交渉。議会に対して陳情を提出。世論を動かすためにニューズレター作成、学習会実施。市長に公開質問状送付。制度が導入された後、利用者との意見交換し、教育委員会へ働きかけていく。

②公設公営学童クラブ指導員の雇用止め問題 (学童クラブ連絡協議会)

指導員が嘱託職員で継続雇用5年という制約。子どもの成長への影響を考え、学童クラブへ預ける親たちが立ち上がった。

他の自治体の実態調査、市長との直接交渉、署名運動など行政へ働きかけてきたが発展せず、連絡協議会の有志でNPOを立ち上げて市から学童クラブの事業を受ける。指導員の安定雇用が実現。休日の開館時間延長など保護者目線での運営が可能になった。

③市民参加の減災活動

(ボランティア・市民活動センター)

災害に対する減災の世論喚起と、センターの役割周知。専門委員会を設置。ワークショップ実施、帰宅困難者歩行訓練の実施協力(3,000人の参加者のうち、600人の受入れ)

これらの取り組みを通じて、市民に気付きを促す。防災・減災の必要性を地域で訴え続けワークショップ等を実施した結果、防災・減災といえばボランティア・市民活動センターというブランドが地域に浸透しつつある。

④使用人として働く少女への支援活動

(バングラデシュ)

少女たちの劣悪な雇用状態を明らかにするべく、現地のNGOとともに実態調査を実施。結果をもとに、雇い主への粘り強い理解促進活動を行う。

呼びかけの結果、自治体が集会所を貸与。そこで子どもたちの居場所づくりを行う。仲間と集える場ができたことで、少女たちの表情が目に見えて明るくなった。雇用主たちも劣悪な労働環境の改善に理解を示しはじめています。

III. 「私が変われば社会が変わる」

私は、どこでどんな活動をしていても「自分の暮らしは自分でよくする」ことを心がけています。当事者が動かなければ、地域は変わりません。ちょっとおかしいな、ということには関わるようにしています。

次に「私が変われば社会が変わる」ということも心がけます。私たちは、一人では何をやってもだめだ、と諦めることが多いと思いますが、構成員である私たち一人ひとりが動くことで、全体である社会が変わってくるという考え方が必要です。

(担当：千葉やす恵)

イベント 紹介 1月



- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
1/10 ～	18:30 ～ 21:00	新しい年に新しい自分を見つめてみよう。ボランティアにも活用出来るフットケアは健康管理にピッタリ	研修室 3	全6回 受講料20,000円 認定・申請テキスト 代10,000円 教材費7,000円 (事前申込必要)	J R F A 足市場	TEL/FAX 022-223-9023 携 帯 090-7564-9831 (森)
1/15 ～ 2/14	開館 時間内	展示「Anego's Valentine」 いろんな人の愛のメッセージにより多様な愛の形を伝えます	5階 展示 スペース	無料 (事前申込不要)	A n e g o	FAX 022-268-4042 (レターケースNo. 26) anegosendai@yahoo.co.jp
1/20	13:30 ～ 15:30	日本笑い学会みちのく支部 第37回「笑学校」	研修室 5	会員：無料 一般：300円 (事前申込不要)	日本笑い学会 みちのく支部	TEL/FAX 022-386-3517 (坂本宏一)
1/27	(開場 10:30～) 11:00 ～ 17:30	地球環境基金主催事業 平成19年度地球環境市民大学校 「環境NGOと市民の集い」	セミナー ホール	無料 (事前申込必要)	地球環境 基金	TEL/FAX 022-262-2731 (NPO法人サイカチ ネイチャークラブ 小野)



シアター 市民活動シアタータイアップ企画 1月の「MOVE - 街で出会う」企画のお知らせ

2006年9月にサポセンに誕生した「市民活動シアター」の魅力や可能性を知っていただく機会として、2007年11月から毎月1回、ゲストディレクターによるプログラムを実施しています。1月は、NPO法人オハイエ・プロダクツさんをゲストディレクターに迎えます。

■ゲストディレクター紹介

NPO法人オハイエ・プロダクツ

「とっておきの音楽祭」を支援すると共に、「みんなちがってみんないい」を合言葉に音楽のチカラによる心のバリアフリーを目指し活動しています。

申込・問合せ先

NPO法人 オハイエ・プロダクツ
TEL/FAX 022-716-5717 (菊地)

開催日	時間	イベントタイトル	参加費
1/18 (金)	19:00 ～ 20:50	ピアニスト榊原光裕 ～とっておきの音楽祭チャリティーライブ～	前売 2,000円 当日 2,500円
1/19 (土)	11:00 ～ 16:40	ダンスワークショップ 全5種 (パーカッション、身体表現、 仙台すずめ踊り、フラ、マンボ・ジルバ)	1種 500円 (2種以上参加の方は 何回でも1,000円) 事前申込制
	17:30 ～ 20:00	ワールドダンスコミュニケーション 講師陣によるパフォーマンス	1,000円 (1ドリンク付) ※ 上記ワークショップ 参加者は入場料無料
1/20 (日)	①10:00～ ②12:40～ ③15:20～	映画オハイエ！バリアフリー上映会 菊地昭典監督 × 言の葉アーティスト渡辺祥子 対談付 ※ ③は映画上映のみ	一般 1,000円 高校生以下 500円 (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

■専門相談＜無料・要申込＞

相談日	テーマと相談員
1月 12日 (土)	子育て支援系NPOを紹介します。 「パパサロン」のびすく仙台 副館長 出雲洋一さん (特活) せんだい杜の子ども劇場 代表 斎藤純子さん
24日 (木)	定年退職後のライフデザインづくりを応援します。 (社) 中高年齢者雇用福祉協会東北事務所 社会保険労務士 柴崎弓雄さん (特活) 東北アジア77ドバィザ-協会 代表 小菅文雄さん

サポセンの3階にある
シニア活動支援センターからの情報をお届けします！

■シニアサロン＜参加費1500円(ワンドリンク付) 要申込＞

「新春 脳トレーニング」

～あなたの脳、元気ですか？～

○ゲスト：(特活) 日本脳トレーニング協会

理事長 佐藤利通さん

○日 時：1月28日(月) 午後6時半～8時半

□仙台市シニア活動支援センター TEL:217-3983

お知らせ

ちょっと待った！！
報告書を書く前に活動を振り返ってみよう！

NPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣シリーズ 第4弾 見返り美人編

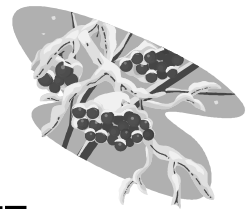
団体として活動していく上で大切なことはわかるけど、ちょっと難しいイメージのある「活動評価」についてワークショップ形式で手軽に学べる講座です。年度末目前、報告書を書く前にぜひ受講をおすすめします。

日時：2008年1月25日（金）18：30～21：30
会場：研修室5
参加費：1,000円
定員：30名（先着順）
講師：松本美穂氏

特定非営利活動法人
市民フォーラム21・NPOセンター 事務局次長

■申込み・問合せ

仙台市市民活動サポートセンター
TEL：022-212-3010 FAX：022-268-4042



編集後記

表紙写真のグランマさんのところへお邪魔しました。とっても温かい雰囲気、居心地がよく、癒されました。みんなの笑顔が素敵です。グランマのみなさん、ありがとうございました。

（本田ふみ）

サポセンでは、NPO関係の新聞記事を収集しています。先日ある方から「サポセンにあった新聞記事がキッカで知り合った団体と、今度一緒に活動することになったよ」という声があり、嬉しく思いました。

（千葉やす恵）

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日／午前9時～午後10時
日曜・祝日／午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ（施設点検等のため）
12/26(水) 12/29(土)～1/3(木)
1/30(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸室
（研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料）
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー（有料）レターケース（無料）事務用ブース（有料）
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース（無料）
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース（要申込／無料）
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書閲覧、貸出も行っていきます。
市民活動に関する情報収集用インターネット閲覧（無料）
- 印刷作業室
印刷機（紙持ち込み／1製版100円、紙折り機（無料））
コピー機（1枚10円）

■ 問い合わせ先 ■

発行：仙台市市民活動サポートセンター
（指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2007年12月25日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：本田ふみ 千葉やす恵

- ★古紙100%使用再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日

■ 案内図 ■



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でご来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。